

JRA日高育成牧場



るが、その6年後、道東地方を中心に、草競馬として復活した。いまは、熱い思いの支持者によって、道東の浜中町や別海町、浦河町などで競技会が開催されている。

馬は、人や荷物を運ぶ、速く走るというだけではなく、ふれ合うことによって人々の心や体に癒しをもたらす。各地で、自然の中を馬に乗って歩くホーストレッキングが盛んに行われているのはそのためと思われ、見る馬からふれ合う馬へと広がりがつつある。世界各地の伝統ある競馬場の周辺には、乗馬療法の施設が併設されており、日本で

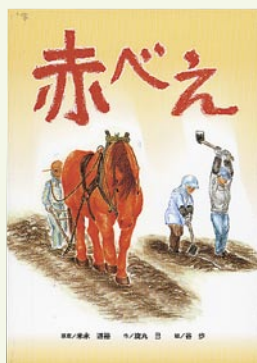
も、ホースセラピーの有用性が認識されて、心身の障害者療育に活用されるようになってきている。障害者の方々が馬にふれたり、乗ったりすることで、情緒の安定や、身体的機能の向上などの効果が実証されているからで、何よりも行動範囲が広がり、野外活動への参加が可能なのが大きな魅力となっている。

馬は、人間の友として長い間ともに歩んできた。そして各地で、数々の馬事文化を生み出してきた。いままた人は、馬によって、楽しみを、癒しを、そして新しい文化を生み出そうとしている。

馬が家族だった頃を伝える1冊の絵本

『赤べえ』という絵本がある。かつて、農耕馬が、家族の一員として荷物を運び、未開の大地や畑を耕し北海道の大地を作り出したその歴史を現代の子供たちに伝える物語である。十勝馬事振興会が2004（平成16）年に発行し、北海道の小学校に配った。

絵を描いたのは、ばんえい競馬の厩務員をしている谷歩さん。毎日、馬とふれ合う谷さんだからこそ描ける馬の表情を、絵本の中に見ながら、子供たちは北海道と馬の特別なつながりを学び、育っていく。



日高のサラブレッドは地域そのもの

遠くからドドドッ、ドドドッと地面の鼓動がなり始める。やがて緑の大草原の彼方から、調教中の十数頭の馬が現れ、地鳴りとともに通り過ぎていく。北海道でしか味わえない雄大さと感動がある。JRA日高育成牧場の敷地は1504.8ha。世界で勝てる馬づくりを進めると同時に、最近では、地元の町民乗馬教室や観光客への見学コースも設定し、人と馬をつなぐ取り組みを進めている。日高地方の9町では、2004（平成16）年「ひだか馬立国宣言」を行った。この育成牧場を中心に、地域が観光、産業、教育、生活とあらゆる面での馬とのかかわりを大切にし、日高地方をさらに元気にしていこうとする意気込みが伝わってくる。

Data



●お問い合わせ先
北海道市営競馬組合（ばんえい競馬）
Tel. 0166-25-9090
JRA日高育成牧場 Tel. 01462-8-1211
日高支庁地域政策課 Tel. 0146-22-2211
北海道和種馬保存協会 Tel. 011-232-5554



どさんこのトレッキング風景